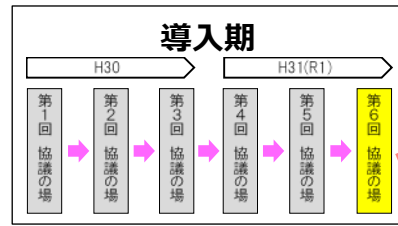


とだの保育創造プロジェクト会議 第6回協議の場 ～報告～

戸田市
こども青少年部
保育幼稚園室

概要

開催日時	令和2年1月23日(木) 午後1時30分～午後4時00分
開催場所	戸田市文化会館5階 多目的ルームC
出席者	11名 欠席者 2名



定着期 (R2年度)
とだの保育創造プロジェクト会議は
次のステップへ!!

議題① 取組の進捗状況を確認しました。

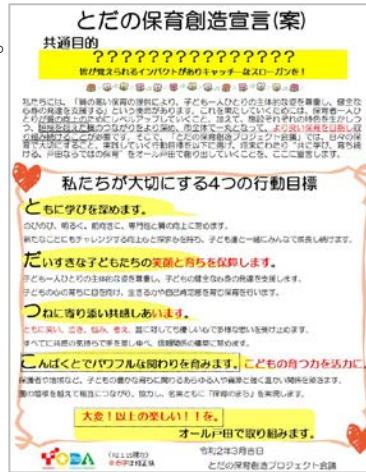
今年度、実施している「保育所見学ツアー」「合同就職面接会」「1園1チャレンジ」の進捗状況を確認しました。

議題② 「(仮称)とだの保育創造宣言」(案)について意見交換を行いました。

検討経過、宣言文(案)、全園からのご意見を共有した上で、2グループに分かれ意見交換を行いました。スローガンについても、全園から頂いた20案をもとに検討しました。

検討した結果

宣言の主体と主なターゲット	✓ 主体(誰が)と、伝えたい主なターゲット(誰に)は、どちらも「プロフェッショナルとして戸田市の保育に携わる全ての関係者」
表現	✓ リード文にある「垣根を超えて」は削除する。 ✓ 4つ目の行動目標は、表現を精査する。 ✓ 締めくくりの言葉の「大変!以上の楽しい!!を。」は削除する。
スローガン	✓ 意見交換の結果を踏まえ、以下の二案を軸に最終候補案をまとめる。 1. 「共に創ろう つながろう みんなでつむぐとだの保育」 2. 「共に保育を創ろう 未来を築こう だとしたらとだ」
今後の流れ	✓ 話し合った結果を踏まえて表現等を精査した上で、各園長会に最終案を報告する。 スローガンは、 教案を候補に投票 していただく予定。



グループワークで出た意見

・ターゲットは?

- ✓ 当初のテーマ「人材確保」という目的に合わせてターゲット設定や表現を精査してはどうか。
- ✓ 宣言は、保育の魅力アップまでテーマを広げてきたプロジェクトを今後も進めていく拠り所なるものなので、目的やターゲットは絞る必要がなくてもよいのでは。



・表現は?

- ✓ どの園も同じ目的、思いで保育に取り組んでいる。園の「垣根」はないのでは。
- ✓ 「こんぱくと」さは、戸田市の地域性を表す。特性を活かしていく、という意図が伝わりやすい表現にしてみても。
- ✓ やはり保育士が主な宣言主体になるので、保育士目線での表現で問題はないのでは。
- ✓ 保育士が働きやすく、保育士も育つ、ということが伝わりやすい。
- ✓ 締めくくりの言葉は、スローガンや行動目標ともつながる、**ポジティブな表現**にしたい。

・スローガンに関する主な意見

- ✓ 「共につくる」、「共創」といった、産学官でこれからも取り組む意志が伝わる言葉を入れたい。
- ✓ 「とだ」という言葉は入れたい。
- ✓ 「全ての子ども」、「平等」という要素を入れたい。SDGsの考えにも合う。
- ✓ 「みんなであつむぐ」という表現がいい。保育は一人ではできない。「つむぐ」という表現は双方向なイメージがあり、みんなが主人公、というメッセージになるのでは。
- ✓ インパクト、キャッチーさ、覚えやすさが重要。「だとしたらとだ」はとてもよい。「なぜなら、園の連携体制や、市のフォロー体制、成長するための機会が整っているから。」というニュアンスを込められる。



議題③ 最終報告会の企画案について意見交換を行いました。

とだの保育創造プロジェクト会議の集大成として、メンバー全員で作上げる最終報告会の企画案を確認、役割分担等を話し合いました。日程:3月25日(水)13時30分～15時に決定

議題④ プロジェクトの総括・来年度の取組体制についての意見交換を行いました。

2年間のプロジェクト総括として、協議の場メンバーの皆さんが感じる成果や課題を中心に意見交換を行いました。

・プロジェクト全体に関する主な意見

- ✓ 産学官で集まって議論したり、取り組む場ができたことが一番の成果。皆の問題意識が同じであることを確認できた。その時々保育の課題を捉えられる場であることが重要。
- ✓ この2年は、あくまでもスタート。今後も長い目で見て取り組みを続けていくことが重要。
- ✓ 学生から「戸田、良いんだよね」という声も聞くこともあり、取組が徐々に浸透していると感じる。市全体で見てくれるという安心感があるのだろう。

・今後の課題や不安など

- ✓ 市処遇改善策による制限や、制度が終わるタイミングでの保育士の動きが不安。
- ✓ 育休・産休等もあるので、保育士確保のための取組は引き続き課題。保育士不足は2年前よりも進んでいる。
- ✓ 2年間で保育を取り巻く環境が想像以上に変わった。今後は、定員割れが課題になる可能性も。

・取組の成果や実感したことなど

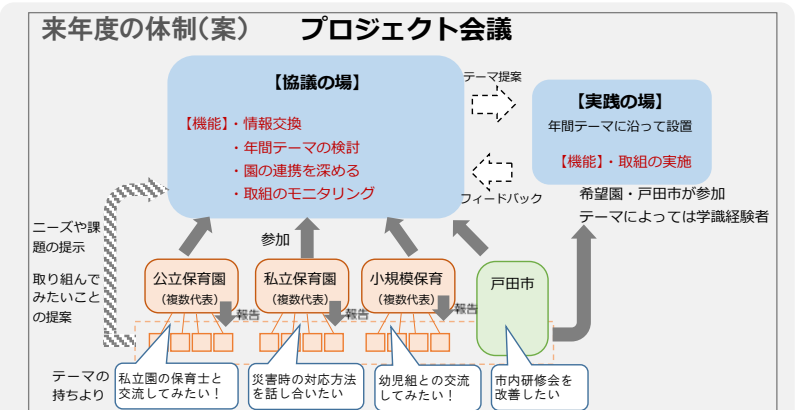
- ✓ 若手保育士交流会は、参加した職員が共感できる内容で、とても好評だった。
- ✓ 公開保育が、他園の保育からアイデアを取り入れられて良かった。
- ✓ 公立園としても私立園との交流のきっかけになってよかった。今後は、**地区単位でも交流・連携**を深めたい。

その上で、来年度の取組体制(案)について、右図をもとに、意見交換を行いました

その結果、大枠はこの形とし、具体的な運用のあり方を今後、検討していくことになりました。

来年度の取組体制に対する主な意見

- ✓ メンバーを少しずつ変え、**関わる園を増や**していきたい。
- ✓ **モデル地区**を設定して、地区内の園で連携していくような取組があってもよい。
- ✓ 官民が参加し、保育の課題を議論したり、**制度への意見・提案等**もできる場であることが重要。
- ✓ ある程度**定期的**に開催した方が動きやすいのでは。
- ✓ どの園からでも**テーマを提案**できるペーパー等の仕組みがあるとよい。



「定着期」となる今後は、それぞれの保育園が培ってきた経験や考えを意見交換や共有できる「場」を設け、保育施設と市の相互の連携を密にしていく。

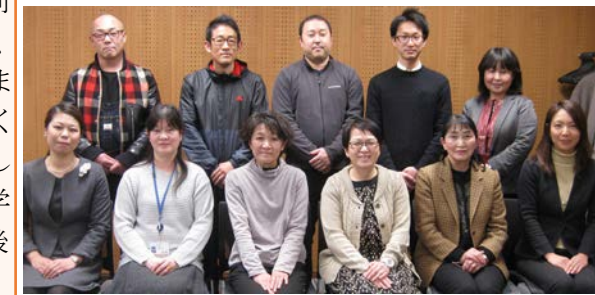
また、現場が抱える課題を定期的に共有し、テーマを設定していくことで、戸田ならではの魅力ある保育や保育の質向上につながる取組を市内の保育園が一丸となって実践できるようにしていく。

プロジェクト会議メンバーから2年間を振り返り、ご挨拶をいただきました。

東京成徳大学 坪井 瞳 准教授

保育の質に議論がシフトしており喜ばしく思います。保育のあり方等の議論・言語化はとても大事です。質の向上はすぐには効果が出にくいですが、質が向上すれば量は自ずと伴います。来年度以降も是非取組を続けてください。幼稚園とも連携できると望ましいです。幼稚園やこども園、更に小学校等をどう巻き込んでいくか、が今後の課題ではないでしょうか。

戸田市の保育人材の確保・定着化・魅力アップのため、参加いただきありがとうございました!



十文字学園女子大学 横井 紘子 准教授

社会情勢に合わせて求職者ニーズや保育の課題も都度変わっていくと実感しています。今日も含め、一度議論の本質に立ち返ることの重要性を感じました。この会議は、その共通理解を作っていく場であるべきと感じます。戸田市は関係主体がよく連携できています。量と質はそこまで区別するものでもないのでは、どちらも大切に今後取り組んでいってください。